

令和2年度(元年度実績) 総合評価書 <施設名 多治見市根本交流センター >		
1. 指定管理者名	公益財団法人 多治見市文化振興事業団	
2. 指定期間	平成28年 4月 1日 ~ 令和3年 3月31日	
3. 業務の範囲	(1)根本交流センターの施設及び設備の維持管理に関すること。 (2)根本交流センターの使用許可に関すること。 (3)使用料の徴収に関すること。 (4)公民館事業及び児童センター事業の実施に関すること。	

4. 採点表									
評価項目	細目	配点	採点基準	実績(パーセントを求める場合は、小数点第1位を四捨五入)		分析、評価、指示等		得点	
1 運営・利用状況 (40点)	(1)利用状況(10点)	①施設の利用率(利用時間/日数×営業時間)	5	平均値比(注) 105%以上:5点、105%未満～95%:4点、95%未満～85%:3点、85%未満:2～0点	平均値比とは、当該評価対象年度の利用率を次に掲げる値で割って求めた率をいう。 (1)指定管理期間1年目 前指定管理期間における利用率の平均値 (2)2年目以降 指定期間における当該評価年の前の年の利用率の平均値(例:4年目の場合は、1～3年目の平均利用率) (3)新規施設の場合又は施設内容の大幅変更等により(1)、(2)によることが不適当であると判断される場合 他の類似施設における利用率実績に所要の調整をして算出した値	105%未満～95% 4点	年次報告書P410,411(利用率・利用人数) ※平均値比95.7% =(R元年度実績)÷(過去3年間実績平均値) 小ホール:66.9%(平均値比103.6% =66.9÷64.6%) 会議室1:28.5%(平均値比82.6% =28.5÷34.5%) 会議室2:44.4%(平均値比95.9% =44.4÷46.3%) 和室:28.9%(平均値比97.3% =28.9÷29.7%) 実習室:22.4%(平均値比91.8% =22.4÷24.4%)	4点	
			(新型コロナウイルスの影響度合いを加味し、2月までの利用率での比較) 平均値比(99%)=利用率(39.3%)÷39.9%(上記(1)適用)	公民館 4点 児童センター 該当なし					
	(1)利用状況(10点)	②利用人数	5	平均値比(注) 105%以上:5点、105%未満～95%:4点、95%未満～85%:3点、85%未満:2～0点	平均値比とは、当該評価対象年度の利用人数を次に掲げる値で割って求めた率をいう。 (1)指定管理期間1年目 前指定管理期間における利用人数の平均値 (2)2年目以降 指定期間における当該評価年の前の年の利用人数の平均値(例:4年目の場合は、1～3年目の平均利用人数) (3)新規施設の場合又は施設内容の大幅変更等により(1)、(2)によることが不適当であると判断される場合 他の類似施設における利用人数実績に所要の調整をして算出した値 ※平成29年度選挙時の増加分は、特殊事情として比較対象から除く。	105%未満～95% 4点	【公民館】 年次報告書P411(利用率・利用人数) ※平均値比91% =(R元年度実績)÷(過去3年間実績平均値) 大ホール:16,811人(平均値比90.1% =16,811人÷18,659人) 小ホール:18,781人(平均値比106.0% =18,781人÷17,719人) 会議室1:5,642人(平均値比77.9% =5,642÷7,240人) 会議室2:5,673人(平均値比90.6% =5,673人÷6,261人) 和室:2,783人(平均値比91.3% =2,783人÷3,049人) 実習室:2,634人(平均値比83.3% =2,634人÷3,163人) 【児童センター】 【30年度】 28,089人、【29年度】 30,328人 【28年度】 31,167人 (平均値比95%≒28,284÷29,861人) 公民館 4点 児童センター 4点 ※ 点数の比率は(児童センター:公民館＝1:1)とする。 総合点4点	4点	
				(新型コロナウイルスの影響からH31.4月からR2.2月までの利用人数累計にH31.3月利用人数を含む) 【公民館】 95%利用人数(延べ54,517人)÷57,300人(上記(2)適用) 【児童センター】 100%利用人数(延べ29,988人)÷29,861人(上記(2)適用)					
(2)市の事業の企画・運営・実施状況(仕様書内)(15点)	15	仕様書以上:15～12点、仕様書に忠実:11～9点、仕様書の一部不実施(軽微):8～7点、仕様書の一部不実施(中程度):6～3点、それ以下:2～0点	【公民館】 年次報告書P413～425(文化事業一覧) ①公民館まつり ・第7回根本ふれあいフェスティバル 1,779人 ・根本交流センターまつり スマイルステージ 新型コロナ感染拡大防止のため中止 ②地域意識醸成事業 ・三ツ星ファミリー事業【みんなで田植え、みんなでも苗植え、など】(根本校区青少年まちづくり市民会議との共催) 6回 814人 ・ねもと茶論 5回 100人(討論形式、9割5分男性参加) ・みんなの時間【バッククッキングを作ってみよう、えっ！こんなところで災害が】2回 77人 ・ハロウィンコンサート 75人 【児童センター】 1. 乳幼児と保護者を対象とした事業:39回、1,691人 2. 児童を対象とした事業:286回、1,871人 3. 地域交流・多世代間交流:3回、1,830人 4. 中高生事業:3回、43人 5. 子育て相談と子育てネットワークづくりの推進:50回、495人	仕様書以上 15点	【公民館】 ・公民館まつりは、児童センターとの複合施設であるため、多世代が、出演者やスタッフとして参加できている。 ・三ツ星ファミリー事業では、地域の方や中学生ボランティアの協力で、あそびを通した多世代交流を行うことができた。 ・根本まちづくり市民会議と連携して地域の特性を活かした事業が展開できた。 ・10月から男性をターゲットにした「ねもと茶論」を開始。毎回テーマを投げかけて、自由に話合うスタイルでデスカッション形式の新しいサロンの形ができた。 ・地域課題として防災に関するワークショップを定期的に開催した。 ・まちの小さな音楽会という雰囲気にはハロウィンの装飾で彩を加えた映像と音楽を合わせたハロウィンコンサートを実施。遊戯室を最大限に活用したコンサートとなりました。 【児童センター】 ・仕様に定めた事業について、忠実に実施しつつ、ニーズに応じた対応をしている。 ・コロナの影響を受ける中、工夫と複合施設の利点を活かし。ほとんどの項目で参加者数を維持・増加している。 公民館 14点 児童センター 15点 ※ 点数の比率は(公民館:児童センター＝1:1)とする。 総合点 14点	15点			
			(3)自主事業の企画・運営・実施(15点)	15	内容・事業数等が期待以上:15～12点、内容・事業数等が例年通り:11～9点、内容・事業数等が例年よりやや劣る:8～7点、内容・事業数等が例年より劣る:6～3点、内容・事業数等が例年よりかなり劣る 2～0点	【公民館】 ※年次報告書P413～425(文化事業一覧) ・地域へ広げる取り組み～ココカラプロジェクト「ラジオ体操をはじめよう」など ・地域の良さを再発見「ねもとめぐり」 2回 57人 ・利用促進、定期利用団体の活動支援事業「ねもとオープンサークル」6回 84人 ・高齢者の学びの場「まなびの扉」～虹色ハーモニー、自力整体、バランスボール 37回 1225人 ・三ツ星ファミリー事業「ねもとあったかクリスマス会」 110人、「みんなでピンポン」14回 177人ほか ・プレジャールームへ行こう！「体を動かす遊びのコーナー」など中学生ボランティアが運営 3回 121人 ・ボードゲームフェスタ 3回 116人 ・小学生・中学生のボランティア「ねもとボランティア☆キッズ」「ねもとプレジャー★スター」 ・NPO法人多治見ひなたぼっこ連携事業「重ねて、積んで、つみきで遊ぼう」「男星保育士とみんなであそぼう」 2回 134人 【児童センター】 1. 乳幼児と保護者を対象とした事業:84回、2,310人 2. 児童を対象とした事業:36回、556人 3. 地域交流・多世代間交流:98回、12,276人 4. 中高生事業:21回、115人 5. 子育て相談と子育てネットワークづくりの推進:2回、134人	期待以上 13点	【公民館】 ・地域の特徴を活かして、多世代での交流を深めることができた。 ・中学生のボランティアスタッフの活躍の場を多く作ることができた。 ・同好会支援事業「ねもとオープンサークル」を実施し、新規参加者を募り、活動継続のきっかけとなった。 ・あそびを通して多世代交流ができる場として「ボードゲームフェスタ」を実施。学習館、笠原中央公民館と連携し、多治見市内での展開をしたところ、新たな利用者が増え、20-30代の若い世代の公民館利用が見られた。 ・健康をテーマに「まなびの扉」を展開し、高齢者の学びあいの場となった。 ・障がいのある児童の地域参加へのきっかけとなる事業を展開した。 【児童センター】 ・交流センターの特色を活かし、各項目とも保護者同士及び地域・多世代交流を意識した事業を行っている。 公民館 13点 児童センター 13点 ※ 点数の比率は(公民館:児童センター＝1:1)とする。 総合点 13点	13点

2	(1)施設管理業務の実施状況(10点)	①清掃	10	①チェック細目の丸数字の各項目を3段階評価する (適正(普通):2点、一部不備あり:1点、不備あり:0点) ②5項目の合計点とする。 ※駐車場は、期待以上:8点、適正(普通):6点、一部不備あり:4点、不備あり2点	年次報告書P426①清掃 施設内清掃(基準:毎日)を実施	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	10点
		②保守・点検			年次報告書P426②保守・点検 ・消防設備保守点検(基準:年2回)・・・年2回実施 ・空調機器設備保守点検(基準:年4回)・・・年4回実施 ・エレベーター設備保守点検(基準:年12回)・・・年12回実施	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	
		③保安・警備			年次報告書P426③保安・警備 機械警備業務を委託して実施(毎日) ・閉館時に2回侵入異常センサーが感知。室内にいた蜘蛛、天井からの飾りの揺れに感知したものと判明	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	
		④小規模修繕			年次報告書P427④小規模修繕 有償修理 全7件 総額 247,960円	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	
		⑤危険箇所の把握(施設の瑕疵)			・定期点検の実施 ・専門家による定期点検、臨時点検の実施 ・利用者の声より	適正(普通) 2点	適正に実施されている。 ・施設に多く使用されているタイルが落下があります。いまのところ低所での落下のみですが、高所部分の浮きを心配しており、目視と打診調査を行っています。	
	(2)その他管理業務の実施状況(15点)	①文書管理	15	①チェック細目の丸数字の各項目を4段階評価する (期待以上:3点、適正(普通):2点、一部不備あり:1点、不備あり:0点) ②5項目の合計点とする。	・ファイリングシステムに沿って、文書に応じた適正な保存、保管。	適正(普通) 2点	・正しく文書管理を行うことで業務の効率化を図りました。	12点
		②環境への配慮			・職員による草めき、業者による選定・消毒など計画的に緑化管理を行った。 ・ゴーヤで緑のカーテンを作り、成長を楽しむとともに夏場の節電対策につなげた。 ・小学生ボランティアと地域の川や道路のゴミ問題と考えたうえで、清掃活動を行いました。 ・ペーパーレスで図書業務の効率化	期待以上 3点	・環境保全として子どもの工作あそびには廃材を利用したり、リサイクルに心がけました。 ・リサイクル、節電、ごみ問題などの課題を明確にし意識づけしたうえで、事業を展開し、小学生ボランティアを中心に楽しみながら学ぶことができた。 ・ペーパーレスで図書業務効率化を図っている。	
		③バリアフリー			・利用者に対して公平性を重んじ、共通のルールのもと対応を行った。 ・障がいのある方も事業に参加しやすい環境を作った。	適正(普通) 2点	・障がい者への配慮を忘れず、車椅子利用者に対して動線の確保や多目的トイレ内で快適さを提供した。ソフト面のバリアフリーに力を入れた。 ・障がいを持った方の同好会への参加支援。	
		④備品管理			・破損を放置しないようこまめにチェックを行い、不備を発見した際には速やかに対応。 ・利用者全体に協力いただいて、備品を大切に扱うこと、もしも破損があった場合は速やかに報告いただく関係性を大切に。子ども達に整理整頓、物を大切に使うことを年間を通じて伝えました。	期待以上 3点	・児童対象事業「このゆびと〜まれ」で整理整頓、物を大切使うこと、次に使う人のためにと公共施設の使い方などを学ぶ場を作った。 ・実習室の備品は持ち込みも多く忘れ物も多いため、使用后すぐに職員立ち合いの備品チェックを実施。 ・乳幼児室専任アドバイザーから意見を聴き、備品等の管理に務めている。 ・利用者による協力体制ができあがっている。	
		⑤個人情報保護			・広報、フェイスブック等の写真掲載については講座申込み時に承諾をいただいた。 ・個人情報を含む書類等の扱いに注意を払いキャビネット内で保管し、処分はシュレッダーでの裁断をし、三の倉処理センターへ持ち込み処理を行った。 ・児童センター登録カードは使用頻度が多いため、取り扱いは十分気をつけました。	適正(普通) 2点	・ 広報、フェイスブック等の写真掲載についてきちんと承諾をいただいている。 ・ 個人情報を含む書類等の扱いに注意を払いキャビネット内で保管し、処分はシュレッダーまたは三の倉センターへ持ち込み処理を行っている。 ・ 児童センター「登録カード」のように子ども達が扱う個人情報の取り扱いについて、最も気をつけ適切に対処している。	
		⑥事故等への対応	0	事故等への対応は減点対象とする(事故なし及び事故等の対応に不備なし:0点、事故等対応に不備あり:△1点)	1) 乳幼児室の滑り台で遊んでいる最中、保護者が目を離した際に頭から転び、滑り台の手すり部分に左顔面をぶつけた。目尻に切り傷ができ出血あり。 →応急処置を行い、病院への受診を勧めた。その後、病院にて心配ないとの診断を受けた。保険適応。 2) 遊戯室で転倒し、口の中を切って出血あり。 →帰宅後歯医者にて、問題ないとの診断を受ける。保険適応。 3) 事業「おはなしなあに」内で、エアートランポリンで遊び、降りる際にバランスを崩し左肘をぶつけた。 →帰宅後、痛みを訴え接骨院へいったところ、整形外科での受診を勧められる。その後多治見市民病院の救急外来へ行き、レントゲン撮影をしたところ、剥離骨折との診断を受けた。ギブス固定。全治2か月。保険適応。 4) 一輪車で遊んでいる最中に、後方に転倒し、おしりと右手を床についた。右肩や腕を動かすことができないほどの痛みを訴える。初見では大きく腫れあがる様子もなく、時間の経過とともに肩の痛み、肘の痛みではなく、右手痛みに変わり、冷却処置をする。 →すぐに受診をしレントゲン検査をしたところ、骨折はなく捻挫と診断。保険適応。 5) 非常口階段の壁に登り、バランスを崩して顔から転倒。コンクリートで花を強打し、鼻からの出血あり。止血と冷却処置をしました。 →翌日耳鼻科へ。軽い打撲と診断。保険適応。 <u>ケガ5件。その他、救急搬送1件あり。事故の対応は迅速に行うことを徹底しました。また、事故が発生した場合、発生状況や状態を確認し再発防止策を検討しました。</u>	事故なし・対応に不備なし 0点	・救急搬送の事例が1件、加入保険を適用したケガ等が5件ありましたが、全て適切に対応しました。 ・事故の対応は迅速に行うことを徹底し、初期対応の重要性を職員間で共有し、適切に報告している。 ・事故が発生した場合、発生状況や状態を確認し再発防止策を検討。エアートランポリンなどの大型遊具を使用する時には適切な職員配置をしたうえで、参加者への説明を丁寧に行い、安全に使用できるよう細心の注意を払った。職員でコントロールしながら、危険を回避させることができた。 ・駐車場での事故を発生させないために、小さなお子さんは手を引いていただくようお願いするとともに、ドライバーの方へも人の出入りが多い施設のため、安全運転に心がけていただくよう呼びかけをした。	0点
3	当該施設の経営状況(5点)	①事業収支	5	当該年度の収入÷支出が、105%以上:5点、105%未満～100%:4点、100%未満:3点	収入29,998,527円÷支出29,775,177円＝101%	105%未満～100% 4点	適正な経営状況となっています。	4点

4	より良い施設運営のための取組 (30点)	(1)市民・利用者の声の反映 (15点)	①ニーズの把握・事業への反映	10	期待以上:10～8点、適正(普通):7～5点、不備あり:4～1点	1)「同好会活動のメンバーが減ってきた。活動を継続するために力を貸してほしい」 →①広報誌にて会員募集のご案内、②同好会活動を見て体験していただく事業「ねもとオープンサークル」を実施し、入会のきっかけと活動の継続支援を行った。 2)地域の地域交流を促進するために、様々な団体をつなぎコーディネート役としてより効果的なコラボをしました。また広域避難所として拠点施設としてのマニュアル作りを進めました。 3)書道教室に通う子ども達から「作品作りのアドバイスと発表の場が欲しい」との相談 →新元号(令和)を迎えるにあたり、何か形にしたいという声からギャラリーNEMOTO「日本元号総覧展」を子どもとともに企画し、過去の元号を全て書き上げロビーに展示した。 4)小ホール利用者より大型鏡の設置要望 →今まで2台あった移動式鏡を2台増設 5)事業「みんなでピンポン」に参加された方より、他に卓球をできる時間がないのかの問合せ →小ホールの空き時間の確認方法、借り方、準備のサポートを体制を整え、個人利用の増加、利用率upへとつなげました。当初の目的を達成したため、来年度は事業ではなく自主で取り組む活動を支援していきます。	期待以上 9点	・地域団体の特性を活かして、目的に応じたマッチングを行っている。地域課題を事業化にし、地域とともに学ぶ形ができている。そこで学んだかたが、町内会、子ども会へも広げていくくみを構築している。 ・多治見市避難所運営マニュアルを基に、オリジナルの避難所運営マニュアルを作成し、災害の備えを強化している。 ・子どもたちの声を活かしたロビー企画は、旬な話題である新元号にいち早く着手し、来館者へ話題提供ができた。 ・同好会支援として体験会を実施。新たな入会者を集客することと、仲間づくりのサポートができた。 ・小ホールで実施した卓球の事業は、卓球ができる場であることを知っていたが、多世代交流、健康増進の機会を目的としていたが、当初の目的を達成したため、新たな取り組みとして、自主活動へのサポートへと展開をした。小ホールの新たな利用者確保と利用促進へつなげた。	9点	
		②苦情対応	5	期待以上:5点、適正(普通):4点、不備あり:3～1点 ※苦情なしは4点とする	1)子どもの安全を第一に考え、幼児水遊びを中止し、室内で楽しめる形に変更しました。楽しみにされている方からの苦情も予想されましたが、開催時間の予想気温とWBGTを見て判断しました。 2)第2駐車場ができて駐車場不足の苦情が減りましたが、隣接する月極駐車場へ駐車してしまう人がいたため、混雑時には職員を配置して月極契約者へご迷惑がかからないよう気をつけました。	苦情なし・適正(普通) 4点	・苦情を未然に防ぐ取り組みとして、日頃から利用者との良好な関係づくりを意識している。 ・大きなトラブルに発展しないよう初期対応にてきちんと話を聞く、不備があったことに対してはきちんとお詫びをするなどの誠意を持った対応で、問題にきちんと向き合い丁寧に解決している。	4点		
	(2)より良い施設運営・事業実施のための提案・姿勢、上記1～3の評価に反映されないその他の成果ポイント(15点)		15	提案、姿勢、その他の成果ポイント(アピール)が期待以上:15～12点、適正(普通):11～9点、普通未満～物足りない:8～0点	1)地域とともに学びあい・育ちあい ・地域を愛する心を育む「壁画制作」 ・郷土の歴史や文化を継承するために、紙芝居「ねもとの昔ばなし」を作成 ・小学生ボランティア隊で進める備品管理 2)各種機関との連携 ・専任のコーディネーターを配置 ①防災アドバイザーとして岐阜大学と連携 ②おもちゃの専任管理アドバイザーを導入し、メンテナンス、新おもちゃの設置アドバイスを受けました ・事業への反映 ①岐阜大学と東北大学の共同研究に交流センターの取り組みを反映させるために「 <u>ワークショップを企画</u> 」 ②学習館、笠原中央公民館と連携した「 <u>ボードゲームフェスタ</u> 」 ③多治見市保健センターが推奨する「子重トレーニング」を乳幼児親子向け事業で展開 ・小中学校との連携 ①不登校児への対応 ②転入生の受け入れ対応 など	期待以上 14点	・地域の拠点施設ということを意識した情報発信や事業展開ができている。 ・地域とともに学びあう多世代交流型事業ができている。 ・片づけをしながら、物を大切にすること、整理整頓の大切さ、施設を大切に思う気持ちを育み、異学年での学びあいが見られた。 ・専任のコーディネーターを配置し、広域の意見を取り入れた運営をしている。 ・岐阜大学との連携はこれからも進めていきたい。新しい分野にチャレンジし、地域探求型を発展させていきたい。 ・保健センターが推奨する子重トレーニングを研修で職員が習得し、乳幼児親子向けに展開した。若い世代の運動不足を課題と捉え、積極的に子重トレーニングを推進した。 ・不登校児への対応として、学校には行けないけど、ボランティア活動やあそびのために来館できる児童について、小学校や保護者と連携を図り、子どもの成長を見守ることができた。 ・子どもの声から転校生情報をキャッチして、小中学校と情報共有をし、サポート体制をいち早く整えている。	14点		
5	その他(減点方式)	(1)報告書類の提出状況		0	提出書類の遅れ・不備に応じて減点対象とする(遅れ・不備内容の程度により△1～△3点) 一部遅れ・不備あり(軽微):△1、一部遅れ・不備あり(中程度):△2、一部遅れ・不備あり(それ以下):△3		遅れ・不備なし 減点なし		0点	
		(2)市からの指示等への対応(報告書類の提出以外)等		0	指示への対応等に応じて減点対象とする(対応等の内容により△1～△3点) 指示等なし・対応等が期待どおり:減点なし、対応等が期待以下(軽微):△1、対応等が期待以下(中程度):△2、対応等が期待以下(それ以下):△3		指示等なし・対応等が期待どおり 減点なし		0点	
合計				100	【4段階評価】 極めて良好 100～85点 良好 84～65点 努力が必要 64～45点 取消し等を検討 44点以下				合計89点	
									全体的な評価 ・三ツ星ファミリー事業では、地域の方や中学生ボランティアの協力で、あそびを通した多世代交流を行うことができています。 ・リサイクル、節電、ごみ問題などの課題を明確にし意識づけしたうえで、事業を展開し、小学生ボランティアを中心に楽しみながら学ぶことができています。 ・乳幼児室専任アドバイザーから意見を聴き、備品等の管理に務めている。	極めて良好